

各単組委員長、担当者 様

日本食品関連産業労働組合総連合会
事務局長 山本 健二
政策局長 栗田 博

フード連合／政策情報 No.10

1. 「食の安全・安心」強化月間の取り組みについて
2. 「食」を大切にする運動の推進について
3. セカンドハーベストジャパンのボランティアに参加しました！

1. 「食の安全・安心」強化月間の取り組みについて

フード連合は、「食の安全・安心」への取り組み強化を行うために、毎年6～7月を「食の安全・安心 強化月間」と位置付け、意識啓発や職場点検活動等に取り組んでいます。とりわけ今年には食品偽装問題等の不祥事が続いたこともあり安全な食品を消費者に提供するという原点にもどり、「食の安全・安心」への取り組みを推進していきます。

食の安全・安心を守ることは、食品関連企業の社会的責任であり、私たちの雇用や労働条件、生活の安定に繋がっていきます。フード連合の仲間一人ひとりが、国民・消費者の健康を支えている食品関連産業で働いている自覚と責任をもつことが必要です。また、企業に対するチェック機能を働かせることは、労働組合の役割であり、「食の安全・安心強化月間」がフード連合としての統一行動であることを改めて確認し、全加盟組織で「食の安全・安心」の確保に向けて下記の内容で取り組むことをお願い致します。

6月～7月は「食の安全安心」強化月間です！

「食の安全・安心」への取り組み

- (1) 各単組の実情に合わせて、徹底して職場の点検活動を実施する。
- (2) 職場で会議を開催し、「食の安全・安心」について話し合う機会をつくる。
- (3) 会社側に取り組みへの主旨・目的を伝え、理解・協力を働きかける。
- (4) 職場内の意識啓発に向けて、ポスターを掲示する。
- (5) フード連合機関紙、政策ニュース等で「食の安全・安心強化月間」を掲載する。

※取り組みの詳細については2014年4月25日付でお送りしておりますフード連合(局)発 13 第 110 号(政策 21)をご参照下さい。

「食の安全・安心」への取り組みは、単組が主体的にそして、組合員・従業員全員が、今一度、私たち自身の「行動のチェック」や「おかしい」と感じたときに、おかしいと言っているか、再確認する取り組みです。品質事故や不祥事を起こさないように徹底して取り組みましょう。

取り組みツールはすべてHPに掲載します。適宜、アクセスをお願い致



します。

※フード連合 HP (<http://www.jfu.or.jp/>) トップページの右側に、「食の安全・安心」強化月間のバナーがありますので、そちらをクリックして下さい。

2. 「食」を大切にす運動の推進について

フード連合は、「食」を大切にす運動を推進します。取り組み項目は下記のとおりです。各単組、組合員の積極的な取り組みを宜しくお願い致します。

「食」を大切にす運動の推進 取り組み項目

(1) 「食べ残しゼロ運動」の推進

①ドギーバッグ・エコバッグの継続販売。

(2) フードバンク活動の推進

①フードバンク活動へのスポンサー契約を会社に働きかける。

②セカンドハーベストジャパン仕様の社会貢献自動販売機設置の推進。

③情報提供 ex ボランティア活動（炊き出し、家庭の備蓄品提供など）。

※取り組みの詳細については2014年4月25日付でお送りしておりますフード連合(局)発13第111号(政策22)をご参照下さい。

(1) 「食べ残しゼロ運動」の推進

「ドギーバッグ・エコバッグ」の購入をお願いします！

フード連合は、「食」を大切にす運動を組織内外に展開していくために、「食べ残しゼロ運動」を推進していきます。具体的には、ドギーバッグとエコバッグを斡旋して、家庭内等で実践することにより、一人ひとりが「食の大切さ」や「食と環境問題」などへの意識を醸成し、活動への理解を浸透させ、「食」の大切さを伝えていきます。

なお、斡旋した価格の10%程度をセカンドハーベストジャパンに寄付します。各単組、組合員の積極的な取り組みを宜しくお願い致します。

(2) フードバンク活動の推進

食品の大量廃棄問題への対応！

フード連合は、食品ロス削減に向けて、加盟組合に対してフードバンク活動の情報提供を行うとともに、セカンドハーベストジャパン（以下2HJ）とのスポンサー契約や寄付を会社に働きかける取り組みを推進します。

食品提供を行う主体は企業ですが、食品関連産業の労働組合である私たちが企業に働きかけ、「フードバンク活動」を推進していくことは、社会的責任の観点からも非常に重要であると考えます。取り組みを進めて頂きますよう宜しくお願い致します。

“フードバンク活動”とは・・・

食品企業の製造工程で発生する規格外品（包装における破損や印字ミス）など、食べ物としての品質には問題ないが、通常の販売には支障がある食品・食材を、食品メーカーや小売店等などから引き取って、福祉施設等へ無償提供するボランティア活動です。1960年代の

米国で、まだ食べられる食品がスーパーで大量廃棄されていることを聞いたボランティアが、スーパーからこうした食品の寄附を受け、地元の教会に備蓄する倉庫を貸してもらい、生活困窮者に配給を始めたのが、フードバンク活動の成り立ちで、日本では、2000年頃から、徐々にフードバンク活動が広がっています。

なお、2HJは日本でフードバンク活動を初めて行った団体です。

フード連合「食」を大切にす運動

まだ食べられるのに捨てられている食料



食品ロスを減らそう

食品に関わる産業で働く仲間として、「食」を大切にす気持ちを社会に伝えていきたい、食を通して社会に貢献していきたい、だからフード連合では「食」を大切にす運動に取り組んでいます。

私たちの「食」の現状を変えるため、身近にできることからはじめてみませんか。

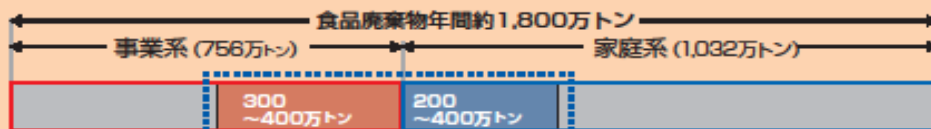
食品ロスの現状 ~もったいなくて環境にもよくない~

1億2千万人が毎日おにぎり1~2個分の食料を捨てていることに

日本では食品廃棄物が年間約1,800万トンあります。その内、まだ食べられるのに捨てられている食べ物のことを「食品ロス」と言い、その量は年間500万~800万トンにも上ります。内訳は、食品関連事業者から年間300~400万トン、一般家庭から年間200~400万トンと言われています。これを日本人1人当たり換算すると、全員が毎日おにぎり約1~2個分を捨てて

いることとなります。

世界では約9億2,500万人、つまり7人に1人が飢餓で苦しんでいる中で、日本はカロリーベースで61%の食料を海外からの輸入に頼りながら、食品をこんなにも捨てているのです。これらが廃棄物として処分されるためにCO₂が排出されていることで、もったいないだけでなく地球温暖化の一因にもなっています。



資料：農林水産省 平成21年調査データより作成

食品ロスが企業と家庭の分を合わせて約500~800万トン

国民の1人ひとりがおにぎり2個分ずつの食料を捨てていることになる × 1億2,000万人分 × 365日!

このままではいけません！
食品ロス削減のため、一人ひとりにできることがあります。

お家 de チャレンジ!

家族と一緒に

実践しよう! “食べ残し〇”

ゼロ

食品ロスの約半分は家庭から発生しています。おうちでご家族と一緒に、外出先で同僚と一緒に、まずはできるところから始めてみましょう。

「食品ロス」を出さないためのポイント!

① 食材を買いすぎない

冷蔵庫の中身や食材の日持ちを考えて購入する。



③ 調理で無駄なく使いきる

食材の食べられる部分を丁寧に捨てない。残った食材は別の料理に活用する。



② 「消費期限」と「賞味期限」の違いを理解

消費期限 → 「安心して食べられる期限」のこと
賞味期限 → 「美味しく食べられる期限」であり、過ぎてはすぐに食べられないわけではなく、すぐに捨てる必要はない。



④ 外出時の食べ残しを防ぐ

食べる分以上は注文しない。食べきれない場合は持ち帰る。



フード連合では、持ち帰りのための「ドギーバッグ」と「フード連合エコバッグ」を販売しています。ぜひご利用ください。

※売上げの一部費用をセカンドハーベスト・ジャパンに寄付しています。

ご購入は労働組合を通してお申し込みください

★ドギーバッグ 200円
(冷凍保存用5枚入りジッパー付ビニール袋)



かさばらず、水気のある食品も持ち帰りやすい

★フード連合エコバッグ 350円



小さく折りたたみためて持ち歩きに便利

★ドギーバッグ&エコバッグセット 550円

ボランティアなどの社会貢献活動

フード連合はフードバンク活動を推進しています

フードバンク活動とは、期限切れ間近の食品や製造工程で発生する、品質には問題ないが外装等の不良により規格外扱いとなったものを企業から寄付してもらい、福祉施設等へ無償提供するボランティア活動です。寄付や人手のご協力を必要としています。

フード連合が支援している「セカンドハーベスト・ジャパン」は、個人でも団体でも協力することができます。

取り組み項目

単組・企業	フードバンク活動へのスポンサー契約を会社に働きかける
単組・企業・個人	セカンドハーベスト・ジャパン仕様の社会貢献自動販売機設置と購入の推進
単組・個人	ボランティア活動等の情報提供(炊き出し、家庭の備品提供など)

詳しくはセカンドハーベスト・ジャパンのホームページをご覧ください <http://2hj.org/>

できることから始めて、考えてみませんか「食」のこと

はじめよう! 食べ残しゼロHP
<http://www.jfu.or.jp/tabenokoshi-zero/index.html>



〒108-0014 東京都港区芝5-26-30 株式会社 470
TEL 03-6435-2882 FAX 03-6435-2888
E-mail フォード連合 jfu@2hj.or.jp
ホームページ フォード連合 <http://www.jfu.or.jp/>

3. セカンドハーベストジャパンのボランティアに参加しました！

フード連合政策局は、「食」を大切にする運動の一環として、5月7日に、フードバンク活動を行っているセカンドハーベストジャパン（以下2HJ）のボランティアに参加しました。ボランティアには栗田政策局長、伊藤政策局担当、藤川 由佳 氏（連合からの研修生）の3名が参加しました。



箱詰め作業をする栗田政策局長と藤川研修生！

2HJ はフードバンク活動の一環として、製造メーカー、スーパー等から寄付される「消費期限が短い」「缶がへこんでいる」等の理由で商品として店頭へ置けなくなったカップ麺、缶詰、米、パスタ等の様々な食料品を生活保護等を受けている個人のお宅や、養護施設等の団体へお届けしています。今回のボランティアではお届けする食料品の箱詰め作業を行いました。これはハーベストパントリーの活動と呼ばれており、石巻の被災された方に食料品をお送りしました。食料品を詰めていると、フード連合の仲間が製造している商品も目につき、フードバンク活動に貢献していることを実感しました。



ボランティアを行うと壁にサインをします！

組合員の皆さんもボランティアに参加してみたいですか。ボランティアは事前の申し込みが必要になります。まずは2HJ (<http://2hj.org/>) までご連絡下さい。

以上